

日本学会議
オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会
オープンサイエンス企画分科会（第25期・第1回）
及び同分科会オープンサイエンス・データ利活用推進小委員会（第25期・第1回）
合同会議議事要旨

1. 日時 令和4年5月11日（水）15:00～17:00
2. 会場 オンライン開催（Zoom）
出席者（五十音順、敬称略）：生貝 直人、狩野 光伸、木部 暢子、喜連川 優、
小安 重夫、武田 洋幸、林 和弘、永井 良三、菱田 公一、溝端 佐登史
3. 議題
 - (1) 分科会委員及び小委員会委員の紹介
 - (2) 分科会及び小委員会設置の説明
 - (3) 分科会及び小委員会の役員の選出と承認
 - (4) 審議依頼について
 - (5) 今後の進め方について
 - (6) その他
4. 配布資料
 - 資料1：審議依頼公文（オープンサイエンス）
 - 資料2：【要綱改正案】オープンサイエンス（分科会・小委員会）
 - 資料3：【設置提案書・委員名簿】オープンサイエンス分科会
 - 資料4：【設置提案書・委員名簿】オープンサイエンス小委員会
 - 資料5：喜連川先生総会説明資料
5. 議事
 - 菱田副会長、事務局より、オープンサイエンスに関する審議依頼と本小委員会の設置に至る経緯について説明があった。
 - 委員の互選により、喜連川委員が委員長に就任した。
 - 喜連川委員長より、林委員が副委員長に指名された。
 - 幹事については、委員の追加の後に決定することとした。今回の議事録については、林副委員長と山地参考人により作成することとなった。
 - 資料1-4にもとづき、審議依頼と小委員会、分科会の設置について具体的な説明があ

った。

内閣府から日本学術会議への検討依頼事項（資料1）

1. これまでの日本学術会議における検討を踏まえ、研究データの共有・公開も含めたオープンサイエンスに対する日本学術会議としての考え方の取りまとめ
 2. 大学・国立研究開発法人等において必要となる研究データ管理・利活用のための課題の整理と具体的方策（管理・活用体制の整備方策、人材確保・育成方策など）
 3. 各分野の多様性を踏まえ、今後のデータ駆動型科学の振興のために考慮すべき事項（研究者間の連携、情報技術や計算資源の活用事例など）、データ共有への具体的取組方策（データ共有へのインセンティブ付与のための方策、分野間連携のためのコミュニケーションの在り方など）
- 資料5 日本学術会議総会資料にもとづき、これまでの学術会議のオープンサイエンスに関する取り組みについて解説があった。
 - 菱田副会長から、本答申の建付けとしては、G7 に始まる政策への具体的な入れ込みを踏まえつつ、より長期的な視点での議論の取りまとめもお願いしたい旨の説明があった。
 - スケジュールについては、12 月末に報告を出すことになっているが、まずは、目次や構成案が夏に出来上がるとよい、という説明があった。
 - 永井委員より、COVID-19 に関する医療データの取り扱いについての現状について説明があった。全体感を持ち、科学的センスをもって時系列にデータを整えていけるように、国のデータの出し方に対する研究者のコミットが必要。
 - 2 部（武田委員、永井委員）としてのこれまでの審議のとりまとめの観点から、また、COVID-19 の状況も改めて踏まえて、答申に入れるべき論点をまとめることとした。
 - 溝端委員より社会科学系の状況について説明があった。2 部の議論と似たところもあり。データ管理の担い手が問題。
 - 木部委員よりも人文学系の状況について説明があった。そもそもデジタル化が進んでいない、少量多品種、言語研究については一定の進展あり（映像化等）
 - いずれの領域もどこから進めるべきかの方向性があると良い。→木部委員：映像データに共通タグの付与（メタデータの共有）を試みている。
 - 次回以降については、定期的に設定する、夜間を利用する、ことを検討することとした。
 - 分科会幹事については、溝端委員、武田委員に打診することとした。
 - 分科会と小委員会は原則合同で行うことで次回検討することとした。
 - しばらくは個別の話題提供の中から議論の方向を模索していくのはどうか？

- データを共有するといいいことがあるという世界のケーススタディを紹介する
 - ☆ MI の分野で頑張っている分野の方がいる。
 - データを取るオートメーション
 - その次は農学の領域
 - 欧州法
- といった話題を取り扱うことが共有された。

以上